

I. Excel の使用例(その3のつづき)

エクセルを使用して「収支表(小遣い帳)」を見やすくする

4. 未記入欄の残高欄を空白にする方法

(残高欄に計算式を設定すると下記の様に¥0と記載されてしまうのでこれを空白にする。)

F5 : <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> fx =F4+D5-E5						
	A	B	C	D	E	F
1		2018年1月 収支表				
2						
3	日付	費目	明細	収入	支出	残高
4	2018/1/1	前月繰越				¥0
5						¥0
6						¥0
7						¥0
8						¥0
9						¥0
10						¥0
11						¥0
12						¥0
13						¥0
14			合計	¥0	¥0	¥0
15						

1) 現在の計算式

上図の様にセルF5には「=F4+D5-E5」と設定されている。

計算式の意味は 残高=前行の残高+当該行収入-当該行支出で示される。

2) 空白行の残高を空白にする設定の考え方

- ・収入欄、支出欄とも空白の場合は、演算結果ではなく空白とする。

F5 : <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> fx =IF(AND(D5="",E5=""),"",F4+D5-E5)						
	A	B	C	D	E	F
1		2018年1月 収支表				
2						
3	日付	費目	明細	収入	支出	残高
4	2018/1/1	前月繰越		¥8,500		¥8,500
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14			合計	¥8,500	¥0	¥8,500
15						

3) 計算式の設定

①セルF5にカーソルを移動する

②演算式を選択するために、リボン部「編集」の項のΣの▼をクリックする。

③右上図の窓が開くので、右のバーを上下させて関数名の中から「IF」を選択し、OKをクリックする。

④左図の窓が開くので、論理式（判断条件）、真の場合（式が成り立つ時）の動作、偽の場合（式が成り立たない場合）の動作を設定する。

⑤「論理式」を考える

この場合は“もしセルD5(収入欄)とセルE5(支出欄)が空白ならば”が判断条件(論理式)となる

これを式で表せば、AND(D5="",E5="")と表現される。A

この場合、ダブルクォーテーション(“)で囲まれた中に文字列がない、即ち空白を示すには(”)が使われている。D5="" はセルD5が空白を示し、E5=""はセルE5が空白を示す。

この二つを(,)でつなぎANDという論理積(二つの条件が同時に成り立つ)で括ると、両方ともが空白という条件が判断条件となる。

⑥「真の場合」(上記の条件が成り立つ場合)の動作

セルD5、セルE5とも空白(即ち未記入の場合)は残高欄も空白にする。

これを表すには“”を記入する。

⑦「偽の場合」(上記の条件が成り立たない場合)の動作

セルD5、セルE5のいずれか、もしくは双方に記載がある場合は残高欄は計算式を記入する。

関数の引数

IF

論理式 AND(D5="",E5="") = TRUE

真の場合 "" = ""

偽の場合 F4+D5-E5 = 8500

= ""

論理式の結果 (TRUE か FALSE) に応じて、指定された値を返します。

偽の場合 には論理式の結果が FALSE であった場合に返される値を指定します。省略された場合、FALSE が返されます。

数式の結果 =

[この関数のヘルプ\(H\)](#) OK キャンセル

⑧「OK」をクリックすると、エクセル表上部の関数式欄に下記の演算式が設定される。

=IF(AND(D5="",E5=""),"",F4+D5-E5)

	A	B	C	D	E	F
1		2018年1月 収支表				
2						
3	日付	費目	明細	収入	支出	残高
4	2018/1/1	前月繰越		¥8,500		¥8,500
5						=E5)
6						
7						
8						
9						

⑨F5の計算式を最下行(本例ではF13まで)コピーする。

(F5セルを選択して「CTRL+C」でコピーし、F6からF13を選択して「CTRL+V」で貼りつける。

これで、空白行の残高欄が空白となり、見やすくなる。